

「九州ルーテル学院大学ビジョン2014」に基づくアクションプラン
— 自律的PDCAの好循環を目指して —

| | |
|-------------------------------|--|
| <p>使 命 (ミッション)</p> | <p>九州ルーテル学院大学の建学の精神は、キリストの愛に導かれた「感恩奉仕」という言葉に託されている。1926年の本学の前身である九州女学院の設立以来、その精神は、87年を経た今も、色あせることなく生きている。 「感恩奉仕」を主眼とする本学の教育理念は、極めて明瞭かつ特色に満ちている。この建学の精神に則ったキリスト教主義教育を基盤にし、幅広い教養（リベラル・アーツ）と専門領域における教育研究による全人的な人間育成により、新しい時代と社会の課題や使命を地球的視野から深く自覚し、より豊かで人間らしい生き方を可能にする地域社会、国際社会の実現に貢献し得る知性と能力を備えた人材を、「地の塩」、「世の光」として送り出すことを使命としている。</p> |
| <p>将来像 (ビジョン)</p> | <p>九州ルーテル学院大学は、キリスト教主義の自由かつ敬虔な学風の下で、「幅広い視野と専門性を兼ね備えた人材」を育成することを基本方針とする。フレッシュマン・キャンプやフレッシュマン・ゼミ等の「特色ある実践的教育プログラム」、学生一人一人に寄り添う「アドバイザー制度」、少人数制の濃密な教育環境の下での「丁寧で意欲的な教職員」、各種の障がい者支援活動や体験学修等を通じて学び得た「ボランティア・スピリットと確かな倫理観を備えた学生」など、本学の特色について、一層の強化・改善を図る観点から検証する。 この検証・評価を通して、学生、卒業生、保護者、地域社会等のステークホルダーの信頼と期待に応え得る大学づくりを志向することによって、本学の社会的評価を引き上げる。目指す大学像として、九州・熊本に九州ルーテル学院大学ありと言われる、「きらりと光る個性ある大学」を掲げ、独自のブランド構築を目指す。</p> |
| <p>基本理念</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神「感恩奉仕」に則ったキリスト教精神を基盤にした21世紀型市民の育成 2. グローバル・コミュニケーション、教育・保育（幼児・児童・特別支援）及び臨床心理学・福祉領域の三本柱で特色を発揮する大学 3. 地域に根ざす教育重視型大学 |

第1期 アクションプラン総括表

◎・・・取りまとめ部門

| 区分 | 目 標 | 計 画 | ロ ー ド マ ッ プ | | | | | | 担当部門 | |
|-------------|---|---|---|---|-------------------------------|------------------|-----------|--------------------|----------------------|----------|
| | | | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | | 2020年度 |
| A 教 育 | 【学部】—教育の質の保証と向上— ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程・編成実施の方針）に基づき、学修成果を保証し、充実した学修機会を提供する。 | ①教育目標並びにディプロマ・ポリシー（DP：学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程・編成実施の方針）及びアドミッション・ポリシー（AP：入学者受入れの方針）の見直し | 教育目標及び三つのポリシーの内容の検証・確定 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 成果検証 | 必要に応じて見直し | 継続検証 | 学務・入試委員会 |
| | ②教養教育及び専門教育を通じた全人教育と実学教育の好バランスの再検証（2014新カリキュラムの年次検証を含む。） | 新カリ共通科目、1年次科目開設 | 1年次科目検証 | 2年次科目検証 | 3年次科目検証 | 新カリキュラム全科目検証 | 必要に応じて見直し | 継続検証 | 学務・入試委員会 | |
| | ③放送大学等との単位互換協定締結の検討 | 新カリの検証開始 | 新カリの継続検証 | 放送大等の単位互換制度の調査（利欠点の整理）。互換候補科目の選定・協議 | 柔軟な履修方法の検討。単位互換協定締結。受取環境の整備 | 実施 | 継続検証 | 継続検証 | 学務・入試委員会 | |
| | ④各学科・専攻における取得可能な教員免許種別の見直し | 他学科等開設の教職課程履修の在り方検討。見直しの結論が得られた場合、ステークホルダーに予告 | 結論が得られない場合、教職課程履修状況、教職認定状況等を踏まえて継続検証 | 早ければ2016年度入学者から実施 | 学年進行監視 | 学年進行監視 | 学年進行監視 | 教員採用試験受験結果等を踏まえ再検証 | ◎将来計画委員会 学務・入試委員会 | |
| | ⑤学修効果を高めるための成績評価制度の検証 | 成績評価に関するアンケート実施 | 学修時間と成績評価の検証。シラバスの成績評価基準の検証 | ポートフォリオの作成検討 | GPAの活用方法の検討 | 必要に応じて成績評価基準を見直す | 継続検証 | 継続検証 | 学務・入試委員会 | |
| | ⑥ファカルティ・ディベロップメント（FD）の推進による教育力の向上 ・教員相互による授業参観の一層の充実 | 授業参観の実施方法、授業評価アンケート結果の授業改善への反映の検討 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | FD・研究委員会 ※仮称で以下同様 | |
| | ⑦スタッフ・ディベロップメント（SD）の推進による学修支援力の向上 ・サービス向上、業務改善及び成長の視点に立った強い職員集団の形成 | 各階層別研修を毎年実施。PDCA確認面談（年2回）継続実施 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 事務長会 | |
| | ⑧障がいのある学生に対する学修支援体制・内容の充実 1) 全フロアへのアクセスフリー化 2) 講演・研修会の継続的実施 3) 大学案内、HP等での受入体制・実績等の公表 4) 学内外でのキャリアアップ体制の整備、就職先の開拓 5) 授業と学内ボランティア活動を通して学生の支援者を養成 6) 大学間での研修会等の開催、連絡協議会の設置 7) 障がいのある学生の把握と継続的支援 8) 障がい学生サポートチーム職員の増員 | 1)2)7)の実施・検証 3)4)の集中取組 5)6)の集中取組 8)の集中取組 | 1)2)7)の継続実施・検証 5)6)の集中取組 | 1)2)7)の継続実施・検証 8)の集中取組 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 障がい学生サポート委員会 | |
| | ⑨図書館、学術情報サービスの充実 1) クラウド型図書館新システムの円滑な運用 2) 図書館ホームページのリニューアル 3) 2号館入口付近の改装（施設整備委員会と協議） 4) 図書・雑誌等の資料の配置見直し 5) 図書館増床（学術財務委員会と協議） 6) 利用促進のための読書推進の見直し 7) 購読データベースの利用促進のための説明会開催（年1回） 8) 九州ルーテルリポジトリに掲載する論文数の増加 9) 学修支援のための講義用図書コーナーの新設 10) 図書館の利用法指導等における学生チューターの育成・活用 11) 読書会、ビブリオトーク、図書の交換会等のイベント促進 12) 中高図書館と大学図書館との連携 | 1) 新システムの正常稼働、2) HPリニューアル、6) 購読誌見直し、7) データベース利用説明会、8) 九州ルーテルリポジトリ掲載論文増加、9) 講義用図書コーナー新設、11) イベント促進、12) 中高図書館との連携 | 3) 2号館入口付近改装（施設整備委員会と協議） 4) 資料配架見直し 10) 学生チューター育成 1)7)8)10)11)12)の継続実施 | 5) 図書館増床（学術財務委と協議） 1) 図書館システム5年館リソース終了による新システム検討 | 1) 図書館システム5年館リソース終了による新システム検討 | 1) 新システム稼働開始 | | | 図書館委員会 | |

| 区分 | 目 標 | 計 画 | ロ ー ド マ ッ プ | | | | | | 担当部門 | | |
|---------|---|---|--|---|----------------------------------|------------------------|-------------|---------|----------|---------------------|-----------------------|
| | | | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | | 2020年度 | |
| A | 【大学院】—教育研究の充実— 地域をはじめとする現在社会に貢献する高度専門職業人を目指し、大学院の教育研究内容の充実と地域社会及び関係機関への認知度を高める。 | ⑩学院における高大連携・幼大連携の推進 | 連携検討のための委員会等の設置。高校・幼稚園それぞれと連携内容の協議 | 具体的な連携内容の検討・確定。協定等に必要の規程の整備 | 実施 | 内容充実に向け継続協議 | 内容充実に向け継続協議 | 継続検証 | 継続検証 | 学務・入試委員会 | |
| | | ⑪その他教育内容・方法及び教育の成果等に関する計画 1) 履修状況、授業評価アンケート等による学生の満足度の調査・検証 2) 入学前教育の必要性及び成果の検証 3) 初年次教育「フレッシュマン・ゼミ」等の在り方の検証 4) 習熟度別クラス編成の促進、履修モデルの作成、全学生に対する履修カルテ（学修成果の記録）の導入、アクティブ・ラーニングの推進 | 1) 学生の授業等の満足度調査・検証 2) 入学前教育の成果検証 3) 「フレッシュマン・ゼミ」の標準シラバスでの実施 | 3) 初年次教育の成果検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 学務・入試委員会 |
| | | ⑫その他教育の実施体制等に関する計画 1) 学務・入試委員会、教職支援委員会、各学科・専攻（コース）の連携強化 2) 障がい学生サポート委員会と学務・入試委員会との連携の在り方 3) 各実習に係る実務と学務・入試委員会の関わりの確認 | 学務・入試委員会（センター）と関連委員会等の役割確認・検討 | 役割の整理、連携の再構築 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 学務・入試委員会 |
| | | ⑬その他学生への支援に関する計画 1) ハラスメント相談員、カウンセラー、学生支援センターの連携体制の整備 2) 学生代表委員会を組織し、大学上層部との定期的な意見交換の実施 3) アドバイザー制度の充実とゼミ担当者との連携、学生支援懇談会の充実、授業欠席調査のシステム化 4) 先輩学生との懇談会の開催 | 1) 2) の検討 | 1) 2) の実施・検討 3) 4) の検討 | 1) 2) 3) 4) の実施・継続検討 | 同左 | 同左 | 同左 | 同左 | 同左 | 学生支援委員会 |
| | | ⑭その他教育の国際化に関する計画 1) 「異文化体験学修」プログラムの充実と参加者増加対策 2) 「海外留学Ⅰ・Ⅱ」の充実及び長期交換留学先の刷新期前 3) 海外からの私費・公費による留学生の増加対策 4) 学生のグローバルマインドの育成 5) TOEFL等の外語検定試験の活用推進 6) 英語による教育プログラムの充実による実証的英語力の向上 7) 留学から帰国した学生に対する支援の充実 ほか | 「異文化体験学修」の検証・見直しと留学相談会の実施。「グローバル・スタディーズ」でゲストスピーカーを数人招致 ほか | 交換留学候補機関の視察・交渉の実施。留学生宿泊施設の充実検討。留学準備講座等の開設 ほか | 継続実施・検討 | 継続実施・検討 | 継続実施・検討 | 継続実施・検討 | 継続実施・検討 | 継続実施・検討 | ◎グローバル委員会 学務・入試委員会 |
| | | ⑮理念・教育研究目標の検証 ・教育・医療・福祉関係等に就する本学修了者の貢献度・課題の実証把握と理念・教育研究目標への反映 | 修了者実証把握・問題点抽出 | 理念・目標の妥当性検証・見直し | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 研究科委員会 |
| | | ⑯ディプロマ・ポリシー（DP：学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程・編成実施の方針）及びアドミッション・ポリシー（AP：入学者受入れの方針）の検証 | 三つのポリシーの整合性の検討・修正 | 三つのポリシーの整合性の検討・修正 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 研究科委員会 |
| | | ⑰志願者増大策の検討・実行 ・学部学生の特別支援学校教諭専修免許の取得促進 ・教育研究内容を伝えるリーフレットを作成し、教育・療育・福祉関係機関に配布。説明会において研究科の魅力PR | 志願者増大策の具体策検討・実行 | 有効性検証 | 継続検証・見直し | 継続検証 | 継続検証 | 検証・見直し | 検証・見直し | 検証・見直し | 研究科委員会 |
| | | ⑱長期履修制度導入の検討 ・多忙な社会人の修学をより容易にするため、標準修業年限3年の長期履修制度の導入の可否検討 | 導入の検討、制度設計 | 制度導入 2016年度入学者募集 | 入学者受入れ | 1年目検証 | 2年目検証 | 3年目検証 | 継続検証・見直し | 継続検証・見直し | 研究科委員会 |
| | | ⑲授業料減免制度の導入 ・現行授業料相当額：50万円の全免（1人）又は半免（2人）の導入について検討 | 検討・立案 | 制度導入 | 効果検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 研究科委員会 |
| B 研究 | —研究の組織的取組強化による価値の創造と地域貢献— 各学科・専攻及び大学院は、その存在意義を明らかにし得る特色を持つ研究を推進する。また、地域との結び付きを深め、地域社会の課題に関する研究とその成果の還元を組織的に推進する。 | ①本学の特色を生かした研究プロジェクトの立ち上げとその成果の地域還元 の具体化（心理臨床学を中心として） ・本学を特色付ける具体的な研究計画の立案と研究の実施 | 具体的研究計画の立案と実施 | 研究の実施と成果のまとめ、成果に基づく提言 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 新規プロジェクトの検討 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | ◎FD・研究委員会 各学科・専攻 | |
| | | ②組織的共同研究の推進（心理臨床学を中心として） 1) 各教員の専門分野・研究内容の相互理解を深めるための研究会、懇談会の実施 2) 学外の組織、研究者との共同研究の実施及び実施中の研究の継続 | 研究会等の実施と研究シーズの把握。共同研究の継続と実施 | 共同研究の立案・実施 | 共同研究の実施と成果発表 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | FD・研究委員会 各学科・専攻 |
| | | ③個人研究費及び学内研究活動補助金の戦略的配分強化 | 他大学の個人研究費配分状況の調査・検討。学内研究活動の活性化及び補助金の戦略的配分の可能性検討 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | FD・研究委員会 |
| | | ④科学研究費補助金等の外部資金の獲得強化 | 科研費等申請率、研究のインセンティブ向上策をFD・研究委で検討 | 向上に向けた効果的な施策をFD・研究委で企画・実施 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | ◎FD・研究委員会 各学科・専攻 |
| | | ⑤学内必要「VISIO」の充実（「応用障害心理学研究」との関係を含めて） 1) 「応用障害心理学研究」の発行時期を勘案し、「VISIO」の発行日程を変更 2) 非常勤講師や地域在住の研究者に対する「VISIO」への投稿の呼び掛け 3) 学長賞を受賞した卒業研究論文を付録として「VISIO」に収録 | 実施 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 図書館委員会 |
| C 募集 | —意欲ある優秀な学生の持続的受入れ— アドミッション・ポリシー（入学受入方針）に基づき、本学の理念を理解し、本学で学び、成長する意欲の高い、社会人を含む優秀な学生を受け入れるための施策を実施する。 | ①費用対効果の観点から集めた募集・広報活動の事後評価・見直し 1) 志願状況に応じた募集期間の検証及び見直し 2) 受験広報媒体による広報効果の検証 | 1) 県外高校訪問とその実質経費検証。南九州エリア指定での適切なWEB受験広報媒体の選定・検証 2) 広報効果検証のためのアンケート調査等実施 | 1) 九州向けWEB受験広報媒体の運用開始 2) アンケート結果に基づく広告及び印刷費の費用対効果の検証と次年度予算への反映 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 学務・入試委員会 | |
| | | ②優秀な入学者を更に増やすための入試区分ごとの受入割合及び入学選抜方法の見直し 1) 推薦入学者と一般入学者の比率見直し及び入学選抜方法（評価項目の比重配分）の検証 2) 志望学科等に対する学習意欲をより評価した選抜方法（志望願出による得点調整）の導入 | 1) 推薦入学者比率60%未満を目指した募集計画の策定 2) 得点調整制の検討。可能であれば早期導入 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 学務・入試委員会 |
| | | ③志願者数や就職実績を踏まえた入学定員（150人）の学科・専攻配分率の検証 | 児童教育コース学生の教員採用率等の動向注視 | 教員採用実績等を見据え、必要があれば見直しを検討 | 早ければ2017年度から配分変更。流動的動向の場合、引き続き検討 | 同左 | 同左 | 同左 | 同左 | 同左 | 将来計画委員会 |
| | | ④入学定員・収容定員に対する現員数の適正な管理 | 入学者数170人（人文83、心理87） | 入学者数180人（人文91、心理89） | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 学務・入試委員会 |
| | | ⑤学生、保護者、卒業生等との連携強化（定期的情報発信、結会と連携した卒業生データの整備・活用） 1) オープンキャンパス等での学生スタッフの主体的活動の推進、学生組織の活性化、保護者会の充実と後援会への発展的対話、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の活用、けやき坂通信など大学情報発信の定期的発信 2) 結会と連携した卒業生の追跡調査 | 1) 2) に係る検討ワーキンググループの立ち上げと検討 | 1) 2) の実施。後援会への発展的対話の継続検討 | 1) 2) の実施。後援会組織の発足 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | ◎学生支援委員会 学務・入試委員会 |

| 区分 | 目 標 | 計 画 | ロ ー ド マ ッ プ | | | | | | | 担当部門 | | |
|--|--|--|---|---------------------------------------|--|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|----------------|---------|
| | | | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | | | |
| D 就 職 ・ 進 路 | —就職・進路支援の強化— 学生の自己実現が可能となるキャリア形成を促進し、就職率・就業力を更に高める。また、大学院への進学者等についても支援を強化する。 | ①キャリア形成に関する教育内容並びに就職体験及びフィールドワーク等の社会体験の充実 1)「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」、「社会力育成論」、「就職体験学修」等のキャリア形成支援授業の充実 2)学校現場でのボランティア活動を更に推進 3)地方公共団体や地域の産業界等との連携協力や実践的な教育プログラムを検討 | 各種社会体験プログラムの学内検討 | 社会体験受入先との交渉 | (新カリ) 関係授業科目の検証、社会体験プログラムの具体化に向けた検討・実施 | (新カリ) 関係授業科目の検証、社会体験プログラムの実施 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | ◎学務・入試委員会 就職支援委員会 | | |
| | | ②就職支援体制・内容の充実・強化 1)企業等(教員以外の公務員を含む。)への就職支援策の強化 2)企業・団体等との連携による就職(出口)強化 3)未内定者に対するフォローアップ体制の強化 4)OE・OGとの連携強化による社会人基礎力・就職実践力の向上 5)関係部署と連携した障がいのある学生のキャリア・就職支援体制の充実 | 企業・学生ニーズのリサーチ。推進方法及び内進体制の明確化。学内関係部署・関係機関との連携方法の検討ほか | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | ◎就職支援委員会 各学科・専攻 | | |
| | | ③就職・進路に向けた各種エクステンション講座(正課外教育)の充実 【就職支援委員会所管】 1)外部講師による業界・企業研究、採用動向に関する講演会実施 2)就職筆記・面接対策の支援 3)自己分析・履歴書・エントリーシートの作成指導 4)資格・検定試験受験支援 【就職支援委員会所管】 5)正課教育と連携した教職カルテの活用 6)専門的実践力を高めるための学校現場等での体験活動、各種研究会への参加支援 7)教員採用試験に向けた集中学習会、外部講師による学習会、模擬試験、面接指導、模擬授業などの準備・実施 8)公立の保育士及び幼稚園教諭を目指す学生の受験対策支援 | 就職活動や教員採用試験受験に必要な基本的知識・スキルを習得する機会を提供し、就職に向けた様々なプログラムを継続実施 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | ◎就職支援委員会 教職支援委員会 | | |
| E 社 会 貢 献 | —地元熊本への貢献の強化— 大学の知的・人的資源を活用し、地元熊本市を始めとする地域への貢献を強化する。 | ①心理臨床センターの機能拡大 ・「こころとそだちの臨床研究所」の設置 | すでに行っている地域貢献活動の整理、地域ニーズの調査・分析。「こころとそだちの臨床研究所」の設置 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 心理臨床学科 | |
| | | ②地域指向型大学として、地域のニーズに沿った特色ある大学事業の積極展開 | | | | | | | | | | |
| | | a. 自治体・地域団体との連携プロジェクトの実施 【人文学科】 1) 菊陽町立小学校6校に学生を派遣し、現職教員の講話を受講させ、活動内容を理解させる。また、学生の活動の振り返りや感謝状の作成を教育委員会や各小学校と共有し、外国語活動の改善に生かす。(キャリア・イングリッシュ専攻) 2) 地元幼稚園・保育所との連携・充実を図るために、研究会への出席講座や「遊び」の出席サークル活動等により、地元幼稚園・保育所と本学の連携・充実を進める。(こども専攻) 3) 菊池郡や熊本市の教育委員会と連携を図り、学生が小・中学校の授業、校外学習、学校行事での支援・協力を継続的に行う。(こども専攻) 【心理臨床学科】 1) 学生ボランティアの派遣 ・中学校、特別支援学校の学校支援ボランティア、メンタルサポーター、フレンドリー支援員等 2) 熊本市その他の教育委員会と連携した心理・福祉・特別支援教育の専門教員の派遣 ・巡回相談、各種委員会委員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等 3) 職能団体等を通じた種別奨励 4) 福祉現場で働く職員の資格取得奨励 | 1) 小免取得希望者を中心とした菊陽町立小学校外国語活動ボランティアの編成指導、活動視察 2) 幼稚園のニーズ把握と同施設との連携方法の検討 3) 学生の地域貢献の在り方検討 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 人文学科 心理臨床学科 | |
| | | b. 地域貢献・連携を促進する拠点(センター等)の設置検討 | 実施中プログラムのPDCAサイクルに基づく継続的改善 | 地域貢献に関わる全学的組織の設置検討 | 全学的組織の設置・稼働 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 将来計画委員会 |
| | | c. 地域向け講座(オープンカレッジ等)や生涯教育・リカレント教育事業の拡充 | 地域ニーズ調査と現在の課題整理 | 他大学講座の受講 | 地域向け講座等の在り方と学内実施体制の検討 | 具体プランの作成、エクステンションセンター(仮称)の設置検討 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 |
| d. 大学授業の市民開放 | 他大学の開放講座の実施形態・状況等の情報収集 | 他大学の開放講座の受講 | 関係部署との実現可能性の協議 | 実施可能なプランの検討・実施 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | ◎生涯学習委員会 学務・入試委員会 | | |
| F 組 織 ・ 経 営 | —教学組織、マネジメント・ガバナンスシステムの見直し— 教学面の組織やマネジメント及びガバナンス体制の充実と併せ、本学の経営基盤の強化に向けて、以下の視点から検討し、具体策を講じる。 a. 社会の変化に対応し、限られた本学資源の選択と集中を行う。 b. 建学の精神“感恩奉仕”を十分に理解させる。 c. 教学面の主体性を重視しつつ、ガバナンスを強化する。 d. 組織や人材の充実・強化を目指すマネジメントを推進していく。 e. 将来に向け、安定的な経営基盤の確立を目指す。 | ①教育研究組織・体制の見直し | | | | | | | | | | |
| | | a. 学部・学科・専攻の見直し：現行体制(2学科2専攻2コース制)の発展型の追究 | 地域の人材ニーズのリサーチ、大学改革を巡る諸施策、他大学動向の注視 | 取組継続及び本学の知的・人的資源を踏まえた学科等の発展型の検討 | 取組継続 検討 | 新学部・学科体制の決定 | 新学部・学科の発足に向けた準備 | 新学部・学科の発足 | | | | 将来計画委員会 |
| | | b. 初等教育教員養成(専修免許)を主目的とした研究科新専攻設置の可否の検討 | 中教書の修士レベル化動向等の教員養成施策を注視 | 引き続き注視しつつ、設置の場合の教員組織の質・量が課題を整理 | 取組継続 志願者確保の目処が付いた場合は教員陣容強化策を検討 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 | 取組継続 |
| c. 学長補佐体制の強化 1) 緊急かつ重要課題についてのタスク・フォース型「学長プロジェクト」(課題検討チーム)の定例化 2) 学長スタッフとしての重責会議(仮称)の設置の検討 | ガバナンス体制の充実、課題解決に向けた学長補佐体制の検討 | 学長補佐体制の具体案決定 | 学長補佐体制の整備・稼働 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 将来計画委員会 | |
| ②将来を見据えた教員配置計画の策定の検討 | 法令上の配置要件を基にしたミニマム配置数と現在員を比較検討 | 学科・専攻から配置の優先度、特殊事情を聴取、配置計画案の作成 | 配置計画のブラッシュアップ。計画案を教授会で検討 | 配置計画(暫定版)の策定 | 配置計画(暫定版)の修正、最終版の策定 | 配置計画の点検・見直し | 配置計画の点検・見直し | 配置計画の点検・見直し | 配置計画の点検・見直し | 配置計画の点検・見直し | 将来計画委員会 | |
| ③自律的PDCAサイクルの確立を目指した自己点検・評価体制・活動の充実・強化 1)「自己点検・評価報告書」内容の充実及び「九州ルーテル学院大学ビジョン2014」に関する「アクションプラン管理台帳」・「アクションプラン年度別実施計画」等の適切な点検・管理による自律的PDCAの好循環化 2) 学生による授業評価アンケートの見直しとその評価結果の組織的活用 3) 大学基準協会による認証評価への円滑・的確な対応 | 1) 自己点検・評価報告書の充実及びAP関係書類の点検・管理 2) 授業評価アンケート見直し 3) 認証評価機関に「点検・評価報告書」提出 | 1) 継続検証 2) 授業評価結果の活用 3) 認証評価受審時の適切な対応 | 1) 継続検証 2) 継続実施・検証 3) 評価結果の公開 | 1) 継続検証 2) 継続実施・検証 3) 「改善報告書」作成 | 1) 継続検証 2) 継続実施・検証 3) 「改善報告書」作成 | 1) 継続検証 2) 継続実施・検証 3) 「改善報告書」提出 | 1) 継続検証 2) 継続実施・検証 3) 「改善報告書」提出 | 1) 継続検証 2) 継続実施・検証 3) 「改善報告書」提出 | 1) 継続検証 2) 継続実施・検証 3) 「改善報告書」提出 | ◎自己点検・総合評価委員会 各学科専攻、研究科委員会 | | |

| 区分 | 目 標 | 計 画 | ロ ー ド マ ッ プ | | | | | | 担当部門 | | |
|---------------------|-------------------------------------|--|--|---|--|--|---|---|----------------|---------------------|---------------------|
| | | | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | | 2020年度 | |
| G 教育 研究 環境 | ④ルーテルブランドの構築 | a. 学生及び教職員に対するキリスト教精神の涵養 1) 学生・教職員へのチャペル礼拝出席の促進 2) 礼拝に関するアンケート実施の検討 3) 教職員を対象としたキリスト教講座の開催 | 1) 実施・検証 2) アンケート実施の是非検討 3) キリスト教講座の実施 | 1) 3) 継続実施・検証 2) 実施する場合：アンケート項目・書式の検討・決定 | 1) 3) 継続実施・検証 2) 実施する場合：事前の周知を経て実施・集計 | 1) 3) 継続実施・検証 2) 実施した場合：集計結果を検証 | 1) 3) 継続実施・検証 2) 実施した場合：集計結果の有効活用と新たな課題の発求 | 1) 3) 継続実施・検証 2) 実施した場合：アンケートの定期的実施を検討 | 継続実施・検証 | 宗教委員会 | |
| | | b. 特色ある大学・学部・学科（専攻）のイメージ形成 1) 「教職員の熱意」、「在学生の元気」、「就職率の良さ・卒業生の活躍」を源泉とするルーテルブランドの創出 2) ブランドイメージ形成のためのアイデンティティ（存在理由、それぞれの目標と活動内容、理念又は使命）の明確化 | 各種分析による本学の現状把握とルーテルブランド構築に向けた具体的な方策の検討 | 具体的方策の議論と方向付け | 具体的方策の第1次実施 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 将来計画委員会 |
| | | c. 戦略的広報活動の継続的推進 1) ルーテルの特色を分かりやすく表した新たなキーワードの検討 2) 学生、教員、卒業生の活動状況の広報、スマートフォン対応サイトの運用 3) 広報活動推進のための部署横断的グループの設置 | 1) ルーテルのキーワード決定 2) 学生の年間活動状況の取りまとめ、情報提供手段の検証 | 2) 学生活動専用ページを既存HPに開設。卒業生取材。スマホ対応HPの運用 | 3) 広報活動推進のための継続化の検討 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 学務・入試委員会 |
| | ⑤危機管理（リスクマネジメント）に関するソフト・ハード両面の充実・強化 | a. 危機管理に関する基本方針及び体制の整備 | 他大学の危機管理規程の調査及び策定の検討 | 危機管理体制・対応策に関する基本規程の制定・周知 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | 継続検証 | ◎将来計画委員会、 学院総務部 |
| | | b. ハラスメントの防止及び対応体制の周知徹底 | ハラスメント防止・相談体制説明会の実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | 継続実施・検証 | ハラスメント委員会 |
| | ⑥将来に向け安定的な経営基盤の構築 | a. 授業料等の納付金改訂の検討 | 施設充実費の改訂を志願者等のステークホルダーに周知 | 施設充実費の改訂実施 年間 100,000円 → 160,000円 | 納付金見直し体制の検討 | 継続検討 | 納付金見直し体制の整備、納付金改訂の検討 | 取組継続 | 取組継続 | ◎学院財務委員会 将来計画委員会 | |
| | | b. 収入財源の多元化の推進 | 編入学生を積極募集。科研費申請拡大策をFD・研究委と協議 | 編入学生を積極募集。施設利用料改訂。科研費申請拡大策実施 | 編入学生を積極募集 | | | | | ◎学院財務委員会 将来計画委員会 | |
| | | c. 寄付金の増加対策 | 90周年募金の推進 | 90周年募金の推進 | 90周年募金の推進。校友組織立ち上げ | | | | | | ◎学院財務委員会 将来計画委員会 |
| | | d. 教育研究経費・管理経費の構成比率の適正化の検討 | 教育研究経費構成比を教職員への説明に追加し、目標提示。経費コストダウン策の洗い出し | 将来の人員費総枠標準を策定・合意 | | | | | | | 学院財務委員会 |
| | | e. 中長期視点からの特定資産の積立計画策定 | 積立計画の検討。毎年の定額積立開始 | | | | | | | | 学院財務委員会 |
| | | f. 学院の新・中長期計画の策定 | 学院財務委で課題整理 | 次期財務計画の策定（2016から5年間程度） | | | | | | | 学院財務委員会 |
| | | ①学生・教職員等のニーズに対応した教育・学修・研究施設等の整備 | 1) ことごとちの臨床研究所の活動スペースの確保 2) 障がいのある学生に対応したバリアフリー化 3) 図書館の蔵書スペースの確保 4) 教員研究室の確保 5) 教職支援室の充実 6) 体育館の環境整備 | 1) ことごとちの臨床研究所をエカード会館に設置 3) 4) 6) 検討 | 5) 教職支援室充実のため、自主学習支援スペースを確保 3) 4) 6) 取組継続 | 2) 2号館エレベーター設置。研究室別棟エレベーターの設置取組 3) 4) 6) 取組継続 | 3) 4) 6) 取組継続 | 3) 4) 6) 取組継続 | 3) 4) 6) 取組継続 | 3) 4) 6) 取組継続 | 施設整備委員会 |
| | ②次世代ネットワーク構築による情報基盤 ICT 戦略計画 | | 次世代基幹ネットワークの調査、ニーズ及び運用管理体制の調査 | 次世代セキュリティ分野の調査、ニーズ及び運用管理体制の調査 | 次世代統合認証分野の調査、ニーズ及び運用管理体制の調査 | フィジビリティスタディ（ケーススタディ設定による）の実施（試験モデルの確立） | 試験モデルの検証（要求仕様決定による実証試験モデルの構築） | 実証試験モデルの検証による運用モデルの決定 | 運用モデル構築による運用開始 | 情報化推進委員会 | |